川遊で猛暑撃退

川の中では大人も小児化する

RAKUEN SPORTS
2020年8月30日 日曜日【赤口】
No.3号
https://www.rakuspo.co.jp ※このURLはなんちゃってです。
ラクエンスポーツ新聞社
899−2311
鹿児島県日置市東市来町養母8888−1

まだ夏は終わらない。猛暑と言えるこの日、隣の川へ向かった。目的場所が環境的に入れない状態だったため場所を変更したが、はしご無しでは降りれない。すると向こうから軽トラが結構なスピードで向かって来た。乗っていたのは「困難な状況を己の知恵で打開する男」ヤスノリ園長だ。そう、ヒーローは絶対に遅れてやって来るのだ。はしごを3本セッティングし園児を川へ降ろし始めた。私は疑問に思った。何故はしごを3本も持っている？一般的に持っていても1本のはず。やはり困難を打開するためにははしごも3本は持っていないと無理なのだろう。川に入ると子どもたちはそれぞれの遊び方で楽しんでいた。ヤスノリ園長は大きめの石を集めダムを造り始めた。ヤスノリ園長は子どもの頃川に入ってはダムを造り、友人から「お前なにやってんだよ」と言われても黙々と石を積み上げた。だが一部分だけは絶対に石を積まなかった。友人は言った「なんで空けてんの？」と。すると空けていた部分が激流となり、そこに身を投じて楽しみ始めたヤスノリを見て友人たちは一同に関心したのだった。　のかも知れない。そんな事があったのか無かったのか、思ったのか思わなかったのかわからないが、同じシチュエーションで子どもたちに激流をプレゼントした。川遊び特有の魚を見つけてテンションが上がる場面も数回あったが、視力0.2の目には全く映らない魚だった。川に入ったら魚を獲るかダムを造るかのどちらかしかない。魚があまりいないこの場所を熟知していたヤスノリ園長がすぐにダムを造り始めたのには納得がいく。だが、今回のアトラクション「激流」は幅50センチであったため一人用だった。遠い昔、激流を楽しむヤスノリに「お前ばっかじゃん！」と言った友人の顔が目に浮かぶ。（友人の顔は知らないが）

川を挟んで別の道を進みながら撮影していたが、最終的にこの道は行き止まりだったため大きく引き返した。

ヤスノリ式に共感

本日の強制アトラクション「激流」
子どもは怖がる。だがやってみればなんてことない。バンジーだって1度飛べば何度でも平気で飛べる。やった事ないが。

令和の西部警察

「軍団を作るなら入ろう！」
そう思えない自分がいた。

人は自然の中で成長する

ラクスポ

ツバサ先生

園長とのホースのやりとりで息が合わず怒られ、迷惑かけまいとすぐに手を離し放棄。その後の作業効率を考えるとその判断は正しい。

一番ドキドキしたアツミ降下シーン
この子本当に落ちるんで

堀と遊ぶ
石を投げて堀の穴に入れるスーパープレー！
ではない。そんな事より石の中に石を入れる意味を知りたいと一瞬思ったが知らなくてもいいと思った。

悲報 何も入っていなかったプールバッグ
前日に準備したママと、中身を回収物かと思い洗濯機に投げ込んだパパ